

大学名

佐賀大学

第69号 特集テーマ「国立大学のこれから」

表題

高校3年間を通じた“継続・育成型”の高大連携事業:「とびらプロジェクト」

## 特色ある取組

オープンキャンパスや出前講義のような単発的なイベントは、高校生の学問への興味関心や学習意欲を一時的に高めることはできるものの、その興味関心が必ずしも継続するとは限りません。こうした高大連携の限界を克服すべく、高校時代の3年間を通じて大学の高度な教育や研究に触れ、将来の進路を考える機会を提供する継続・育成型の高大連携カリキュラムを独自に開発し、「とびらプロジェクト」として佐賀県内の高校生を対象に実施しています。

本プロジェクトの特徴は、「継続・育成型」、「5つの分野」、「アクティブ・ラーニング」、「同じ志を持った仲間との出会い」、「佐賀県教育委員会との連携事業」です。プロジェクト立ち上げの際には、学長による県内の高校訪問を実施。学長と高校長が意見交換を行い実質的な連携体制を構築しました。平成26年度に教育学部実施の「教師へのとびら」が始動。令和元年度までに全6学部が実施する5つの“プログラム(とびら)”が開講し、現在に至ります。

参加者は希望するプログラムに高校1年生で登録。各学部が実施する年2～3回のイベントに参加します(3年生のみ1回)。継続的に参加して、ポートフォリオ等の最終成果物を提出した者には、修了証書が授与されます。例年400名程度が登録し、3学年で約1,200名の登録者が存在します。

令和3年度の修了者は132名。そのうち約7割が参加したプログラムと関連する分野に進学しました(22名は本学入学)。また、今年度で10期生を迎える「教師へのとびら」では、本学に入学した修了者の多くが県内の教員として既に現場で活躍しており、「高校の3年間と大学の4年間で未来の教師を育む」という同プログラムの成果が得られています。

## 期待できる成果・評価 など

県内の高校教員を対象としたアンケート調査では、本プロジェクトに対する認知の高さとともに、高大接続の教育プログラムとしての有効性が高く評価され、引き続き継続して欲しいという期待がとても高いことが明らかになりました。

佐賀県の大学進学率は全国的にみて下位にあります。本プロジェクトへの参加をきっかけに、大学進学意欲が喚起され進学率が高まるとともに、将来、県内で活躍する教師や医療人などの育成にも寄与することが期待されます。



教師へのとびら:ワールドカフェの様子



全学部で実施する5つの“とびら”

## 参考URL

とびらプロジェクトHP

[https://www.sao.saga-u.ac.jp/admission\\_center/tobira/](https://www.sao.saga-u.ac.jp/admission_center/tobira/)